

阿部美哉先生をしのぶ

島 進

今は亡き阿部美哉先生の御霊の前にお別れの言葉を申し上げます。私はおよそ25年にわたり、宗教学の後輩として先生にかわいがっていただきました。何度も海外での学会にともに参加させていただきましたが、海外での生活に慣れない私を阿部先生はそれとなく、ご親切に導いてくださいました。いつもいたずらっぽく話しかけられ、楽しい交わりをかもしだそうとする先生のお心遣いが深く心に残っています。心強い兄貴分として頼りにしておりました先生が、このように早々とあの世に旅立たれましたことは、まことに痛恨の極みです。

先生は日本の宗教学の先達としてまれな得がたい人材でありました。アメリカの大学で教鞭をとられた後の阿部先生は、宗教行政や高等教育行政の領域で活躍をされるとともに、宗教社会学や宗教制度史の領域で多くの先駆的な業績をあげられました。日本とアメリカの両国の宗教や法制の実情に通じておられ、欧米の宗教社会学者と親しく交わってこられた先生のお仕事から私はまことに多くを教えていただきました。

私自身は主として宗教社会学の領域でご教示を受けることが多かったのですが、先生はそれ以外のまことに多くの顔をもっておられました。たとえば、高等教育研究の分野でも先生は新しい視点を次々と提示してこられました。先生の交友関係のおかげで私は多くのすぐれた先達とめぐりあうことができました。

日本の先輩、同輩の先生方は阿部先生のことを、「阿部ちゃん、阿部ちゃん」とよんで親しく接しておられましたが、先生の海外のお友達が先生に感じている親しみも、また格別のものがありました。アメリカやヨーロッパのたくさんの宗教学者や宗教社会学者は、いつも先生と会うのをとても楽しみにしており、会う度にたいへん懐かしそうにしておられました。阿部先生はほんとうに人気

のある、地球上のあちこちにうちとけた仲間の多い研究者でした。

日本の宗教研究を国際化していく上で、阿部先生が果たされた役割は実に大きなものがありました。私ども後輩の研究者は、阿部先生に導かれて、海外の研究者と接する機会を度々、もつことができました。2005年3月に東京で開かれます国際宗教学宗教会議は、すでにこれまでの準備の過程で先生のご尽力に多くを負っております。ここで先生を失うことは、私どもにとってまことに大きな痛手です。そのことを考えると、重苦しい困惑と喪失感におそわれざるをえません。先生の支えがあれば、残り1年余りの国際学会の準備ははるかにたやすく、またもつともつ楽しいものとなったことでしょう。

阿部先生は仲間や後輩のことを深く気遣い、身近な者たちのためならあらゆる労をいとわれませんでした。先生はそのために命を縮められたのではないかと思われます。先生は早くからそのことを悟っておられたようです。最後まで皆とともに楽しく生きる、それ以外の詰まらぬ保身や名誉は求めないという信念のようなものを感じ取ることが何度もありました。それは先生が宗教に独自の深い理解をおもちであり、その理解を身をもって生き抜かれたということでもあると、今にして思います。

先生はお酒と食事と会話を大事にされました。私どもはこれから、その先生を思い出しながら、あの世からの先生の励ましに答え、さらに豊かな日本の宗教研究の発展に取り組んでまいりたいと思います。難しい問題に直面したとき、先生の笑顔を思い出し、さわやかな気持ちになってお酒と食事と会話を楽しむことにするつもりです。

阿部先生、長い間、まことにお世話になりました。先生と過ごした良き日々を忘れません。どうぞ安らかに眠り下さい。